

述の缺陷を避けますれば容易に防止することが出来ます。其の外總て最初より子供は平面の基床に横へることに注意なさい、子供を抱き上げる時にも亂暴なことをして軟かい骨格を損ふ様なことをしてはいけません。子供に運動を強

いたり骨と肉の自由な働きを妨げたり、身體をあまりに緊張的に結んだりすることをさけて寧ろ自然に任して自身立ち起き、運動を始める迄母親たちは怠らずに靜かに御待になつた方が得策です。

## 大正十三年最終の保育誌

京 都 穎 原 美 代

私は其の最終日の當番にあたつてみました、例年摺紙の一束を子供の休暇中に復習の意味で與へるのであつたが、本年は子供の誕生日の祝にとて皆に玩具を買つて下さいと云つて家庭からの寄附金があつたのでそれで摺紙のかはりに二三十錢位のおもちやを與へることになつて前日買調べて置いたのであつた、それをたゞ分けて歸へつたのでは興がないと思つて それを子供に渡す方法を考へました、其の結果、クリスマスと思ひうかべました、宗教的の意味でな

しに、たゞあそびとしてサンタクロスを利用しようとするのであります。クリスマスとはどんなことか、といふ事も知らせたいと思ひついたのであります、そしてサンタクロスに主任の方に假裝して頂くことにした、尙又次のやうな話を作りました。

準備 一、クリスマスツリー。この木に玩具の番號札を附す。

一、サンタクロスの服装。赤ケット二枚、帽子（赤紙で貼つたもの）白紙を切つたひげ、まゆ毛や口ひげ（綿）等。

一、大きな袋。（テーブル掛を利用）

實際 例の通りに會集

今日は何日になつたのですか、そう二十五日ですね、今年皆さんとあそぶのも今日ぎりですね、昨日皆さんとお約束して置きましたね、おもしろい遊びをしてお別れさせようね、「もう幾つ寝るとお正月」と毎日々々歌つてゐましたが、あと七つ寝るとお正月が來ますね、うれいせう。

ゆうべ先生は床に就いてからも考へましたの、皆さんとお約束した通り、どうしておあそびしようかとね、あゝしよるか、こうしようかと考へ〜しましたの、すると私の體がつゝと軽く〜なつて空に飛んで行くぢやありませんか、飛行機のやうに音も何もありませんの風船玉のやうにフワリ〜ととんで行くのです。それ彼の高い頂きに雪が白くなつてゐる比叡山ねあの山を越してね、三井寺へ行つ

た時に廣い海があつたせう、あの琵琶湖も越してね、三井寺のま向ふにあつた富士山のやうなお山ね、三上山彼のお山も越しましたの、そして私は何所へ行くのか自分ではわからないのですがね、東北々々へとフハリ〜ととんで行くのです。すると向ふの方に燈の光が見えますの、あんなところにあんな燈が見える何所だらう、あそこへ行つて見やうと思つてゐるとス〜と其の方へいきましたの、そこはね、赤や緑や青のガラスでね高いお家でした、そしてお家の中から子供さんの唱歌の聲が聞こへますの、ハテナ何だらうと思つて窓からチョイとのぞいたんですの。そしてたらね子供さんがたくさんよつてねまん中に、白いおひげの、赤い着物を着たおぢさんがニコ〜して居られました。誰でせう？ そう〜サンタクロスのおぢさんですの、お室のどこにも玩具で一ぱいのですの、まああんなにいろ〜のおもちやがたくさんあるんだわ、ほしいな、私のすきな幼稚園の子供さんにあげ度いんだが、ほしいな、たのんで來ようか知らと思つてね入口の所へいつて戸を押して見ましたらね、ギ〜と音がして開きましたの、そして皆の

お目々が私を見ました。私はおじぎをして中には入りました、そして皆さんの仲間入をしましたのよ、種々な子供さんのお話をききました、サンタクロスのおぢいさんは云ひました。

「こゝは私の家です、私は子供が大好きでいつでも私のそばには多勢の子供がよつて來ます。そして其の子供さんは皆強いよい子供ばかりです。

クリスマスが近づいたので、其の仕度をするのに忙がしいのですよ、此頃と毎晩町へ出掛けて行くのです。大きな袋に一つばいおもちやをつめてそれをかたけて出かけますそして子供が寢靜まつたじぶんにとつとは入つていつておもちやを置いて來るのです。それが私の一番楽しい仕事なのです、今夜ももう少しすると出掛けます」つてね。

それで私は云ひました。

「私も子供が大好きですわ、私も毎日々々幼稚園へ行つて多勢の子供さんとあそんでゐるのです、皆いゝ子供さんですがね、私の仲よしの子供さんにも其のおもちやを下さいませんか」とお願ひしました。

そうするとおぢいさんは考へて入らつしやいましたが、

「上げますとも、けれども私は晝間は町を歩くことがきらいです、晝間にあるくと、子供がよつてたかつておもちやをとり合ひして皆こはしてしまひますから獨でないといけ行ませんね」と云ひましたの。

どうしようか知らと考へました、そして私はおぢいさんに云ひました。

「そんならねまことにすみませんが、今夜の内に幼稚園迄來て下さいませんか、そして幼稚園で泊つて下さい、明日になつて子供に會つて下さいな、お願ひですから私がこれから御案内しますから」と一生懸命お願ひしましたんですよ、そしてらねおぢいさんも暫く考へてね。

「宜しい行つて上げませう」といはれましたの、私はうれしくて〜たまりませんでした。

サンタクロスのおぢいさんは、大きな袋を持つて來られていろんな玩具を一つばいづつめ込んでゐられました。私は大よろこびでね、仕度が出来ましたから二人は又其風船玉のやうにフワリ〜と空を飛ぶのです。何時か知らぬまに

あの學校の運動場の真中にスーと下りました。

「さあおぢいさんこゝが幼稚園ですよ、こつちへ入らつしやい」といつて、それ緑組の入口の左手ねあすこの戸を開けては入りましたの、袋が大きいので中々は入らなかつたのですがね私は袋の後押しをして、エレヤラヤツトは入つたのですよ、そしてお廊下をあるいて、それあそこにお藏があるでせう、あのお藏の内へ御案内しましたの。

「どうぞこゝで明日迄で待つてゐて下さいすみませんが」といつて私は家へ歸つたのです、そしてお目が覺めたらちやんと朝になつてゐました。すぐに起きて幼稚園へ行くお仕度をしました、例より早く來ましたの、そしてねすぐにお藏へ行つて見ましたらね、「チャーン」とサンタクロスのおぢさんはニコ／＼して居らつしやいましたの、うれしいでせう。

「之れから靜かに、この木の番札を一つづゝお取りなさい其のうちにおぢさんを連れて來ますからね」

其の間にサンタクロスの假裝が出來上りました。

準備して置いた赤ケツト二枚を、一枚はスカート、一

枚は二つ折りにしてかた掛として筒袖のやうにピンでとめ、赤い帽子をかぶり、白い切紙のおひげ、つけ綿でまゆげや口ひげをつけ大かた顔のわからぬ迄でに綿でひげだらけとした、實によく出來たのであつた、そして大きな袋におもちやをつめ込んで引きすり／＼出る。

子供にはサンタクロスのおぢさんが出られたら皆さんお手を鳴らしてむかへて下さいと注意して置いたのであるのに、サンタクロスの見えても誰一人手をたゞく者はありません、身を引くやうにしてぢつと見つめて居るばかり、かたづを呑んで不思議の眼を見はつてゐるのである、しばしそうした、沈黙があつたが、年長組の誰かゞ「あゝ岡本先生やわ」といふ聲がしました。それでやゝ子供の幾分か不審が晴れたらしい動勢が見えたが、まだまじろぎもせず見つめてゐるものが少なくなかつた。サンタクロスは中央に出られて、

「私はサンタクロスです、皆さんが餘り強くなつたので遠いお國からわざ／＼皆さんに上げようと思つておもちやをこんなにたくさんもつて來ました、靜かに番札と合

せて取りに来て下さい」と

云ひましたら、皆んなが

「ヤツバリ岡本先生やつた」とホツとしたやうにどよめいて來ました。

そして順を追ふて袋のおもちやは皆出されてしまひました。

封じた箱の中のおもちやは何であるかは分らぬ丈それ丈子供は中が見たさに、

「何やらか早う見たいな」とためつすがめつしてゐる姿、

「あなたのは小さいな私の大きな箱や」

なんてあつちのすみこつちの角の方で三々五々頭を集めて中をのぞき込むあどけなさ保姆もみな其の境に引き入れられて笑みこぼれてゐた、こうして最終の日はさよならを

げた。

此の園の兒供達は常に三圓や五圓位の玩具を與られてゐる幸福な家庭の子女であるが、かうした園の贈物は高の知れた二三十錢のつまらぬ玩具である。それがどれ丈幾倍か子供のよろこびに價するであらうかを思はせられる、其の品が子供の満足をかふに價値ないものであつても、其のあそびの間其の封じたものを開く迄の子供のよろこびに満ちた好奇心それを持ち歸つて家庭に於ける語り草、其印象何れも私共の望ましい事ではあるまいか、かうしたあそびの中に保姆と子供とは心の接近、互の心のよろこびの共通など考へさせられるものではあるまいかと思ひました。

新春のどかな日門に羽根つく音を聞きつゝ記す。

# 『兼 ち ゃ ん』

東京女子高等師範學校教授

岡 田 美 津